

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2011年4月30日】

団体名 社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠学園

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現が「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

児童養護施設 至誠学園 海外視察研修事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

当初、本事業申請の段階ではアメリカでの海外視察研修を予定していた。しかし、平成22年5月に ISS 香港 (International Social Service 香港)のメンバーの皆さんが来日され、当園を視察され情報交換をしたことが御縁で、香港における社会福祉サービス(特に家族へのサービス)の実践について学ぶ機会を得ることができた。このことがきっかけとなり、現地への視察訪問が今後の我が国における児童福祉サービスの方向性を考えていくうえで有用であろうと判断し、当初申請していたアメリカへの視察から香港への視察へと計画を変更し、実施をした。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

上記、プロジェクトの背景から、香港における特に児童および家族に対する福祉サービスを視察することを目的としてプロジェクト内容を検討した。香港は東洋にありながらも、早くから英国の福祉政策を導入し構築しており、その意味からも我が国が今後のあり方を考えていくうえで先行的な具体的事例を得られるのではないかという期待を持っていた。幸いにして、ISS 香港総監の Mr.Yau 氏からの招聘ということもあり、香港の福祉政策を総合的に視察し、その実践から学びを深めることができることが可能となった。ISS 香港の提供するサービスを中心に里親を含めた社会的養護の実情、スモールグループホームの現場視察など大変有意義なプロジェクトとすることができた。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

* 別紙、報告書をご参照ください。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

* 別紙、報告書をご参照ください。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり

5. 研修を終えて

今回、海外研修という貴重な経験を通して、香港の社会的養護の現状を学ぶことができましたが、日本とは異なるシステムや現状に驚かされることばかりでした。特筆すべきは、措置権が民間の団体に委託されているという点で、民間に措置権が委託されるということは、地域に密着した適切なサービスを現状に合わせて提供することができ、児童やその家庭にとってより良い支援ができると考えられます。また、措置権という大きな権利が民間に託されているということは、要保護児童やその家庭、あるいは社会的養護を受けている児童をコミュニティでどのように支えていくかという高い意識が民間レベルで求められ、子どもの社会的養護という大切な取り組みを、政府に任せっぱなしにしないコミュニティ作りに繋がるのではないかと考えます。ただし、しっかりとした基本となる枠組みや連携（政府と民間、民間同士の）がしっかりできないと、各地域で差が出てしまい、新たな課題が生じることも考えられ、これらのような民間に措置権を委託することのメリット、デメリットを現場で働く職員の方々に聞けなかったことは心残りです。

また、他国の実践や現状を知ることで、日本の現状や取り組みをよく知らない自分にも気づかされ、今後、積極的に学んでいきたいと思うことができました。

この海外研修の中で最も印象的だったことは、香港の社会的養護の在り方がより家庭的であるということである。SGH を実際に見学させていただき、夫婦制による家庭的養護での職員と子どもとの信頼関係の強さや、子どもたちの安心感を肌で関ることができた。また子どもたちが、私たち訪問者を明るく笑顔で迎えてくれたことに、香港が様々な文化を受け入れた国際色豊かな都市であることを象徴しているように感じた。SGH スタッフのご夫婦はプライベートもほとんどなく、子どもたちの幸せのために日々尽力されていることを知り、そのような方々と出会うことで、今までの日々の業務に追われ、つつい子どもの問題性にばかりとらわれてしまいそうになっていた自分自身を見つめ直すことができた。また、香港では若物が福祉の仕事に就く人が少なく、私たちの年代のケアワーカーは非常に珍しいと言われた。子どもたちの幸せのために従事する仕事を選んだことは、非常に責任があり、そのことを真摯に考えていかなければいけないのだと改めて感じた。今回の研修で ISS の職員の方々をはじめ、研修中に香港で出会った方々からは、自分たちで物事を向上させようというパワーを感じ、これからの私たちに必要となってくる力であろうと強く感じた。このように、香港研修を通じて、日本では経験しえない様々な刺激や、ひらめきを感じるとともに、今までの自分自身を見つめ直す機会となった。文化の違いはあっても、子どもたちの幸せのために、日々従事している方々と出会えたことは、私自身、非常に心強くこれから児童福祉を考える上で大きな支えとなるだろうと思う。このような機会を与えて頂き、心から感謝申し上げます。

香港社会福祉事業団 (ISS香港) および児童グループホーム視察

行程表

1日目	6:40	学園園庭集合	
11月2日 (火)	7:05	立川駅北口 ↓	リムジンバスで羽田空港へ
	8:29	羽田空港着	
	10:45	羽田空港発 ↓	キャセイパシフィック543便
	15:00	香港着	着後、添乗員とホテルへ 泊: キンバリー
2日目	AM	市内施設見学	
11月3日 (水)	PM	市内観光	泊: キンバリー
3日目	AM	周辺散策	
11月4日 (木)	PM	ISS香港オフィス訪問 香港の福祉情勢についてお話を伺う	
		児童グループホーム見学	泊: キンバリー
4日目	AM	市内観光	
11月5日 (金)	13:00	ホテル発	添乗員と空港へ
	14:00	香港国際空港着	
	16:10	香港発 ↓	キャセイパシフィック542便
	21:05	羽田空港着 ↓	リムジンバスで立川へ
		立川駅北口 学園着	到着後解散

訪問先 International Social Service HongKong
 Stephen H.B. Yau
 6/F, Southom Centre, 130 Hennessy Road, Wanchai, HongKong
 Tel: 852-2834-6863

宿泊先 THE KIMBERLEY HOTEL (キンバリー)
 28 KIMBERLEY ROAD TSIMSHATSUI KOWLOON HONG KONG
 Tel: 852-2723-3888 Fax: 852-2723-1318

参加者 高橋 利一
 渡邊 新太
 塩原 友紀
 長谷川 小希子 以上4名